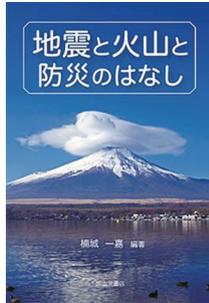


# 書評

楠城一嘉 編著

## 地震と火山と防災のはなし

成山堂書店 118 ページ 2,000 円



この本は、静岡県に関係の深い題材をもとに地震・火山・防災を扱ったものです。あとがきによると、「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」という一般向け防災講座をもと

に、書籍にしたものということです。企画をした楠城一嘉さんは静岡県立大学特任准教授です。第1章著者の尾池さんが同大学の学長となられたこともあってか、静岡県立大学の地震学をアピールするために頑張ってまとめられたことが感じられ、大変頼もしく思います。場所柄、富士山、南海トラフ地震、そして伊豆半島を中心において、その背景となる地球科学と、その影響を受ける災害と防災について親しみやすくまとめた本です。

さて、第1章は、編著者と同じ静岡県立大学の理事長兼学長の尾池和夫さんが執筆されています。尾池さんと言えば変動帯、というのが私のイメージで、いろいろな著書で変動帯の文化・文明を論じていらっしゃいます。本章も、全体のイントロダクションの役割と共に、日本列島の変動と日本人の生活や文化との関連といった、尾池さんらしいお話が書かれています。各節では、話題の変化について行くのに若干苦勞しますが、尾池さんならではの話題がちりばめられていて、楽しく読むことができます。

第2章は富士山が題材になっています。前半は、山梨県富士山科学研究所の吉本充宏さんが、富士山の火山学的側面から執筆したものです。富士山と言えばとかく首都圏に影響を与えるような爆発的噴火による火山灰ばかり強調されますが、非爆発的な溶岩流についてもきちんと記述されています。さらに山体のどこに火口ができるか分からないことから富士山には噴火警戒レベル2（火口周辺注意）がないことや、下山道が噴火の影響を受けることに備えた迂回路があることなど、地元で富士山の研究と防災に係わってきた著者ならではの記述が随所にあります。第2章後半は、多少毛色が変わっていますが、静岡県立大学特任准教授の鴨川仁さんの執筆になります。鴨川さんは、NPO法人富士山測候所を活用する会の専務理事・事務局長でもあり、プラタモリの富士山編で、山頂にある旧測候所の建物を案内されていたので皆さんご存じかと思います。内容

は、気象予測や気候変動に関する富士山山頂での観測の意義が分かる内容となっていました。私にとっては、鴨川さんは電磁気学的地震予知を研究されている研究者という印象が強かったので、また違った鴨川さんを知ることができました。

第3章は、南海トラフ地震に関するもので、織原義明さんと東海大学客員教授の長尾年恭さんが執筆しています。南海トラフ地震に関する一般的な知識から始まり、東海地震の予知情報が「事実上」凍結されたこと、海域の観測が重要である理由、さらに南海トラフ地震に関する臨時情報に係わる話がコンパクトに取り上げられています。南海トラフ地震については様々な話題が想定されるところですが、長年東海地震に向き合ってきた静岡県を意識した構成になっていると思います。

第4章は、伊豆半島です。日本列島の地球科学を考える上で、静岡県から外せないのが伊豆半島です。本章は長年伊豆半島の火山やテクトニクスの研究を続けてきた静岡大学の小山真人さんが執筆しています。小山さんは伊豆半島ジオパークにも深く関わっていて、その視点からの話題も取り上げられています。本章はまさに小山さんのためにあるような章と言えます。伊豆半島の成り立ち、大室山に代表される単成火山と溶岩の話など火山に係わる話題、幕末に安政の東海地震で沈没したロシアのディアナ号の話や、丹那断層の話など、大変興味深い話題がちりばめられています。

第5章は、自然災害に備えるための一般的な話題で、長尾さんが執筆しています。第4章までが自然科学との関わりが深い話でしたが、ここから話題が防災に変わります。比較的短い章で、そつなくまとめられているという印象です。それでも「南海トラフ地震が必ず起きますか」という質問は「人は必ず死にますか」と同じ、という表現に地球科学者としての長尾さんの見方が表れているように思いました。

第6章（終章）は、今までの執筆者と異なり、イラストレータとして防災を含めて多くの書籍のある草野おおさんが執筆しています。各ページにわかりやすいイラストで説明されているところがとても印象的でした。非常食として、主食、乾物、缶詰、ビタミンC、調味料など、イラストでコンパクトに表現されたものは、ぱっと見てとてもよくわかり、また後から調べるときにもとても便利です。このイラストをコピーして冷蔵庫にでも貼っておくと、普段から非常食のストックに気をつけるようになりそうです。また、気にはなっているけれどもなかなか面と向かって体験談を聞きにくいトイレ問題についても、その対策についてイラストでわかりやすく説明されています。せっかくこのような素晴らしいイラストレータを著者にいられたのであ

れば、各章に一つくらいは草野さんのイラストがあっても良かったと思いました。

以上、全ページカラーで、図表も多くコンパクトにまとまった書籍です。表紙は山中湖畔から撮影された富士山の写真で、青い空と白い雪と雲が色彩の基調となっています。

各ページの見出しなども、表紙と同じ青が用いられて統一感があり、また色彩も目に優しく、本のデザインとしても秀逸だと思います。楽しい感じで、地震・火山・防災を知る本として良い本だと思います。

(山岡耕春)